2020年　クリスマス・イヴ礼拝

～クリスマス物語と賛美の夕べ～

12月24日（木）19：00－19：45

※司式者、奏楽者、朗読者は、すべて西川口キリスト教会のメンバーです。

◇司式者による開会のことば		
前　　奏	「天なる神には」	奏楽者
招　　詞	イザヤ書 9：5	司式者
賛　　美	新生讃美歌157番「来れ 友よ 喜びもて」	一　同
祈　　り		司式者
聖　　書	マタイによる福音書1：18-25	朗読者
賛美（オルガン）	新生讃美歌153番「エッサイの根より」	奏楽者
聖　　書	ルカによる福音書2：1-17	朗読者
賛美（オルガン）	新生讃美歌186番「牧人ひつじを」	奏楽者
聖書朗読による メッセージ	～主イエスがこの世に来られた意味～ コロサイの信徒への手紙1：15-18 ガラテヤの信徒への手紙4：4-6 フィリピの信徒への手紙2：5-8 マルコによる福音書10：45	朗読者
賛美（オルガン）	新生讃美歌176番「主は豊かであったのに」	奏楽者
聖書朗読による メッセージ	～わたしたちの応答～ ローマの信徒への手紙1：2-6 ローマの信徒への手紙1：16-17 ヨハネによる福音書3：16 ヨハネによる福音書15：12-14 ヨハネの手紙Ⅰ　4：7-12	朗読者
賛　　美	新生讃美歌163番「きよしこの夜」	一　同
後　　奏	「きよしこの夜」	奏楽者
◇司式者による閉会のことば		

＜聖書のことば＞

マタイによる福音書　１章 18-25 節

　イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

　「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。 ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

ルカによる福音書　２章 1-17 節

　そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。 これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。 人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。 ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。 身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。 ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、 初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

　その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。 あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

　「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

　天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。

（日本聖書協会『新共同訳 新約聖書』より）